



どうなる! どうする? 改訂学習指導要領と英語教育



その直後、2013年6月に、安倍内閣による第2期教育振興基本計画が策定され、その中で『英語をはじめとする外国語教育の強化』が示された。しかし、その内容には、文科省の当初の案にはなかった『小学校

英語教育が、小学校も含めて強化されようとしている経緯について、江利川さんは、「始まりは、2013年4月に、自民党教育再生実行本部から『トップを伸ばす戦略人材育成』『グローバルに活躍する人材を年10万人養成』と、提言がなされたことだった。その直後、2013年6月に、安倍内閣による第2期教育振興基本計画が策定され、その中

英語教育の強化 そのねらいは?

10月27日(日)に名古屋で「愛知の教育を考える集い」(愛教労主催)が開催されました。全体会で「どうなる? どうする? 改訂学習指導要領と英語教育」をテーマに、江利川春雄さん(和歌山大学教授)による記念講演会が行われました。講演内容の要旨を紹介します。

小中の負担増大 英語嫌いが増える...

小学校の英語の語彙数について、江利川さんは、「文科省は、小学校5〜6年の2年間の140時間で、600〜700語の語彙数を学習する

における英語教育の早期化・教科化」が、安倍内閣による官邸主導で書き込まれることになった」と話されました。10万人というのは、高校卒業生の年約100万人の1割であり、あとの9割は切り捨てられるということことです。これは、一部のエリート育成をねらいとしたものであり、公教育としての学校教育を破壊する問題だと言えます。また、文科省も当初想定しなかった小学校での英語教科化の問題について、江利川さんは、「小学校児童への英語の調査研究で、『児童は、音声から言葉の意味は理解しやすいが、文字から意味を理解したり、文字を音声にしたりすることは、6年生でも困難』という結果が出ている。文科省が小学校での導入を想定しなかったのは専門的に考えれば当然のこと」と、話されました。

「英語は、早くから学んだ方が身につく」と、多くの人が思っているようだが、それは、根拠や実証なき思い込み。スペインの研究調査では、8才、11才、14才、18才以降で比べると、聞く、話す、読む、書くなど、どれも学習開始年齢が高いほど有意に成績がよかった。また、日本の研究でも、小学校から早期に英語学習を強化した子が、中学校で嫌になり、伸

英語教育は 早い方がいいか?

続いて、江利川さんは、

としており、1時間あたり4.3語となる。一方、現行の中学校は、3年間で1200語であり、1時間あたり2.9語となる。実に、今の中学生よりの重い負担を小学生に強いるという大きな問題が生じている。英語嫌いが増える恐れがある」と、指摘されました。また、中学校の英語については、「中1は、今の中2レベルからスタートすることになる。語彙数は、小学校600〜700語と新語1600〜1800語の合計2200〜2500語で、現行の2倍。さらに、文法では、現在完了進行形や仮定法(現行の高校1・2年で履修)が入っている。そして、授業は英語で行うことを基本とするとしており、負担は大きい」と、話されました。

び悩むという調査結果も出ている。子どもの発
達から考えると、小学校よりも中学校から英語
学習に力を入れた方がいい」と、話されました。
さらに、

「英語は英語で教えた方がいい」というのも単
なる思い込みで、実際には、適宜に日本語を使
った方が効果的。そして『グローバル化には英
語が必要』というのもし込み。実際に社会に
出て、グローバル企業で英語を必要とする人は
少数。さらに、今はAーの時代。『ポケットク
(約3万円)を使えば、ほとんどの外国語を、
その場で訳してしゃべってくれる』と、話され
ました。

英語嫌いにしない。 ことばを楽しむ子に

英語教育の早期化の問題がありつつも、実際に
は、小学校で英語の授業が始まっています。今後、
どう対応するかについて、江利川さんは、
「大事なことは『英語嫌いを作らない』とい
うこと。そして、週2時間しかないのだから、英
語を『教え込もうとしない』ことも大切。DV
Dなどの視聴覚教材をフル活用して教師の負担
を減らしつつ、楽しく分かる授業にする。指示

などは日本語まじりでいいし、日本語なまりの
英語でもいい。

また、『ことばを楽しむ子を育てる』ことも大
切。そもそも母語である日本語のことばや文章
の理解が重要であり、母語がしっかりしてない
と英語も伸び悩む。

そして『英語学習をする中で、日本語を育て
る』という視点を大切にしたい。改訂学習指導
要領でも『日本語との違いを知り、言葉の面白
さや豊かさに気付くこと』と示されています。

例えば『love youを、できるだけたくさん
訳してみよう』と課題を出すや、『好きです』『愛
しています』『好きやねん』『月が綺麗ですね(夏
目漱石)』など、さまざまな表現ができることが
分かり、日本語の豊かさに気付く」と、話され
ました。

そして、発音についても、
『かな発音』を取り入れるといい。『let it go
は【リリゴ】』『yesは【家康(いゑ)す】』『
you and Iは【言わな(い)ゆわな(い)】』と発
音すると(太)コシックは強く発音、ネイティブな
発音として聞こえるし、楽しく覚えられる。日
本語とリンクして英語を学習することで、小学
生にとって親しみやすくなり、負担感も減る「
と、話されました。

英語の専科加配と 多忙化解消を

今回、安倍内閣と文科省が英語教育を強化した
ことに関して江利川さんは、

「本来なら、国が、そのための専科加配や各種
設備のための予算措置をして進めないといけな
いの、人も金もかけず、各自治体や学校現場
に丸投げで進めようとしているところに大きな
問題がある」と、指摘されました。

また、大学入試の英語試験に関して、民間企業
に丸投げしようとし、格差を助長する問題になり、
延期されるという出来事がありました。これにつ
いては、全国学力テストの採点業務や、ICT教
育に関わる業務を、一部の大手企業に委託してい
る問題とも合わせ、官民癒着ではないかと疑問視
する声が多く聞かれます。

そして、来年度、小学校で英語が教科化される
と、評価も含め、今よりさらに多忙化が加速する
恐れも生じます。英語専科教員の各校配置などの
条件整備を進めることが必要であり、子どもや教
職員にとって、無理のない形で英語教育を進める
ことが大切になってきます。